

# 用せせらぎ

## 第19号

R3.11.2

### 学校目標 輝け！伊万里小

校長 長谷川 晃三郎

10月中旬から朝夕の冷え込みが厳しくなりました。10月の前半は残暑が厳しく、熱中症の心配などもしていたのですが、急に冬の足音も聞こえてきそうな感じになりました。今年も残り2ヶ月。体調管理に留意しながら、元気いっぱいがんばって欲しいと思います。



## 実りの秋



### ☆秋のスケッチ月間

10月はその学年も校内や校外でスケッチを行います。校外では松島神社や相生橋など、校内は前庭や運動場など思い思いに描きたい場所を選んで、スケッチをします。

年間を通して絵画やクロッキー、デザインなど図工の勉強で取り組めますが、これまで学習した遠近感や色のぬり方等の技術を生かして、いつもより長い時間をかけて仕上げます。みんな秋の心地よい風に吹かれ、集中してがんばっています。



### ☆伊万里供日学習会（10月8日）

今年もコロナの影響でトンテントン祭りやパレード等は中止になりましたが、本校では伊万里の伝統を引き継いでもらいたいという思いから、例年トンテントン学習会を実施しています。今年はコロナ感染防止のため、各学級でお祭りの様子のビデオを見たり、太鼓をたたいたりしながら学習しました。各学級（6クラス）に一人以上「秋鼓会」の方に入って頂き、たいへんわかりやすい説明をしていただきました。また、一人ずつ「受講証明書」のカードをもらい、みんな大喜びでした。



### ☆3年修学旅行（10月15日）

天候にも恵まれ、充実した修学旅行になりました。伊万里市内の旅行とあって、「虎仙窯」「消防署」「木材市場」「鮮鼓堂」といった様々な場所で幅広く学習することができました。「虎仙窯」では焼き物がどのようにしてできているのか詳しく知ることができました。消防署では消防車を間近に見て、その役割を学びました。「木材市場」や食べ物を扱う「鮮鼓堂」では、管理の過程が全く違うことに驚いていました。引率の先生方が「どの場所でもとても話の聞き方が上手でした。」と感心しておられました。



## ☆4年修学旅行（10月29日）

佐賀県庁を皮切りに、バルーンミュージアム、エコプラザを見学しました。県庁ではなかなか入ることのない旧知事室で椅子に座ったり、屋上からの景色を楽しんだりしました。バルーンミュージアムでは、臨場感あふれる映像を見たり、バスケット（バルーンのかごの部分）に乗ったりして、バルーンの事についていろいろと学びました。水ものがたり館の外でおいしい昼食を食べた後、エコプラザではこれまで取り組んできた環境の事について学習を深めました。普段あまりできない体験を通して、たくさんのことを学んだ修学旅行でした。



## 全校朝会での話（10月27日）



ちょうど一週間後、11月3日の水曜日は「文化の日」という祝日でお休みになります。文化の日は、自由と平和を愛し、文化を進める日となっています。また、時代を作ってくださった多くの方々に感謝する日でもあります。

伊万里にも日本の文化を創ったとてもすごい人がいます。伊万里市松島町の出身で、世界的にも有名な人です。誰のことか分かりますか。伊万里市出身でとてもすごい人というだけでは分からないと思いますので、いくつかヒントを出します。考えてみてください。

- ① 伊万里神社や駅前公園にその人の銅像が建っています。
- ② 伊万里小学校の校長室にその人が習字で書かれた文字が額に入れて飾ってあります。
- ③ 日本で初めてキャラメルを作った人で、後にお菓子の王様「お菓子王」と呼ばれた人です。
- ④ 4つ目はこれです。殆どの方が食べたことがあると思いますが、このキャラメルをつくらせる「森永製菓」という会社を作った人です。伊万里市の大坪町にはシンボルであるエンゼルマークを飾った「森永公園」があります。

どうですか。分かった人手を挙げてください。そうですね。森永太一郎という人です。

今日は「文化の日」にちなんで森永太一郎の話をしてします。

太一郎さんは幼いときにお父さんを亡くし、お母さんとも生き別れになって学校に通うことができませんでした。ですから12歳まで自分の名前を書くこともできなかったと言われていました。そんな太一郎さんが伊万里で焼き物関係の仕事をしていたおじさんから商業の事を習って、はじめは焼き物売りの仕事をされていました。アメリカに行って日本の焼き物売りの仕事をしていましたが、全然売ることができません。しょげていた時にアメリカの方から元気を出しなよと一粒のキャラメルをもらいました。そのキャラメルを食べたらとってもおいしくて、体の中から元気が出てきたそうです。日本にはその時代キャラメルはありませんでした。初めて食べる味だったのです。心も体も元気になった太一郎さんは、その時、みんなに元気を与えることができる栄養のあるおいしいお菓子を作ろうと思ったことが、日本で初めてキャラメルなどのお菓子をつくるきっかけとなりました。

でも学校に行っていない太一郎さんが日本にはないお菓子をつくるのはとてもたいへんなことで、した。たくさんの苦労がありました。

アメリカで1年間お菓子作りの勉強をしていた時も、苦労して作ったお菓子が全然売れなかった時も決してあきらめませんでした。そんな太一郎さんが心がけていたことが2つあるそうです。

一つ目はどんな苦労があっても決してあきらめないこと。

うまくいかないことばかりで何度もくじけそうになったそうですが、倒れても何度も起き上がってあきらめずにがんばり続けました。

二つ目は誠実で礼儀正しくあること。

焼き物売っていた時もお菓子売っていた時も相手のことを考えて誠実に人と接すること。例えば断られても「話を聞いて下さって有り難うございます」という言葉を必ず言うことや嘘の宣伝や大げさな宣伝は絶対しないことを心がけました。また、あなたたちのように挨拶や返事をとても大切にしていた人です。そして、会社をつくった後、働く人を選ぶ面接の時に、学歴がある人より誠実な人や礼儀正しい人、言葉遣いや返事、挨拶が気持ちの良い人を第一に選んでいたそうです。

今日は伊万里の偉人 森永太一郎さんの事を話しました。これで今日の話が終わります。

